

# Morgan Stanley

For Immediate Release

モルガン・スタンレー

## 2008 年度第 2 四半期決算を発表

純営業収益は 65 億ドル

1 株当たり利益は 0.95 ドル、年率換算した株主資本利益率は 12%

[ニューヨーク、2008 年 6 月 18 日] モルガン・スタンレー (NYSE: MS、以下、同社)は本日、2008 年度第 2 四半期(2008 年 3 月 1 日~5 月 31 日)の継続事業による利益が 10 億 2,600 万ドル、希薄化調整後 EPS(1 株当たり利益)は 0.95 ドルになったと発表した。これに対し、2007 年度第 2 四半期はそれぞれ 23 億 6,300 万ドルおよび 2.24 ドルだった。純営業収益は前年同期比 38%減の 65 億ドルだった。人員削減に関連する約 2 億 4,500 万ドルの退職費用<sup>1</sup>を含む非金利費用は 51 億ドルと、前年同期比 28%減少した。年率換算した継続事業の株主資本利益率(普通株式)は前年同期の 29.4%に対し、12.3%となった。

第 2 四半期の継続事業による業績は、これまでに発表された 2 件の事業売却による税引前利益を含んでいる: グローバル・ウェルス・マネジメント・グループ部門に計上されたスペインの国内富裕層向けウェルス・マネジメント子会社である Morgan Stanley Wealth Management S.V., S.A.U.(「MSWM」)の売却に関連する 6 億 9,800 万ドルと、法人・機関投資家向け証券業務部門で計上された MSCI Inc.の売り出しに関連する 7 億 3,200 万ドルである<sup>2</sup>。

2008 年度上半期の継続事業による利益は 25 億 7,700 万ドルと、前年同期の 46 億 7,700 万ドルから 45%減少した。継続事業の希薄化調整後 EPS は前年同期の 4.41 ドルに対し 2.40 ドルとなった。純営業収益は前年同期比 28%減少して 148 億ドル、非金利費用は同 17%減の 112 億ドルだった。年率換算した継続事業の株主資本利益率(普通株式)は前年同期の 30.1%に対し 15.9%となった。

<sup>1</sup> 退職費用は、法人・機関投資家向け証券業務部門で 2 億 300 万ドル、グローバル・ウェルス・マネジメント・グループで 700 万ドル、資産運用業務部門で 3,500 万ドル計上された。

<sup>2</sup> MSWM S.V. と MSCI Inc.の事業売却に関連する税引前利益は、それぞれ 7 億 4,800 万ドルと 7 億 4,400 万ドルの利益から取引関連費用を差し引いた数値である。

2008 年度第 2 四半期の純利益は前年同期の 25 億 8,200 万ドルから 60%減の 10 億 2,600 万ドルとなった。また、2008 年度上半期の純利益は前年同期の 52 億 5,400 万ドルから 51%減の 25 億 7,700 万ドルとなった。2007 年度上半期の純利益は、非継続事業に計上された Discover Financial Services の業績を含んでいる。2008 年度第 2 四半期の希薄化調整後 EPS は前年同期の 2.45 ドルに対し、0.95 ドル、年率換算した株主資本利益率(普通株式)は前年同期の 27.4%に対し、12.3%となった。2008 年度上半期の希薄化調整後 EPS は前年同期の 4.96 ドルに対し 2.40 ドル、年率換算した株主資本利益率(普通株式)は前年同期の 28.7%に対し、15.9%となった。

## 業績のハイライト

- 株式のセールス&トレーディング業務の純営業収益は、デリバティブ業務、プライム・ブローカレッジ業務、現物業務の堅調な業績が、自己勘定取引の低迷により打ち消され、前年同期比 11%減の 21 億ドルとなった。
- 債券のセールス&トレーディング業務の純営業収益は 4 億 1,400 万ドルと、前年同期比 85%減となった。これは金利・クレジット・為替商品およびコモディティ部門の収益減少に加え、モーゲージの自己勘定取引で 4 億 3,600 万ドルの純損失を計上したことが主因である。
- その他のセールス&トレーディング業務では、主に融資ならびに契約済もしくは今後予定している融資枠に関連してヘッジ損失が発生し、時価評価による利益で一部相殺されたものの、約 5 億 1,900 万ドルの純損失が計上されている。
- 投資銀行業務の営業収益は 8 億 7,500 万ドルと、前年同期比 49%減となった。
- グローバル・ウェルス・マネジメントの純営業収益は前述の MSWM S.V.の売却を含み、24 億ドルとなった。新規の純資産は 133 億ドルと過去 2 番目の高水準を記録し、顧客資産は 9 四半期連続で純流入となった。
- 資産運用業務は厳しい市場環境に直面し、不動産で損失を計上した。同部門は 40 億ドルのインフラストラクチャー・ファンドを成功裡に組成するなど、提供商品を引き続き拡充し、新規の顧客資産は 155 億ドルの純流入と、7 四半期連続で純流入となった。
- 同社は連結の平均流動性資産と単体の平均流動性資産をそれぞれ 1,350 億ドルと 740 億ドルに拡大し、レバレッジ比率と調整後レバレッジ比率をそれぞれ 25.1 倍と 14.1 倍に引き下げるなど、流動性と資本のポジションを強化した。

モルガン・スタンレー会長兼 CEO のジョン J. マックは次のように述べている。「今四半期の混乱した状況を踏まえ、我々は堅実に資本と流動性ポジションの強化を続けた。期中の平均総流動性資産は 1,350 億ドル、期末の総流動性資産は 1,690 億ドルとなった。厳しい市場環境と顧客取引の低下がとくに債券と資産運用の業績に打撃を与えた。しかしながら、モルガン・スタンレーの多岐にわたる事業構成が寄与し、ウェルス・マネジメント、プライム・ブローカレッジ、株式デリバティブ、世界トップクラスの国際的営業基盤で堅調な業績を達成した。我々は資本、リスク、流動性を注意深く管理することで、顧客へのサービスの提供を継続し、魅力的なリスク・リターンを捉える態勢が整っている。」

## 法人・機関投資家向け証券業務

法人・機関投資家向け証券業務部門の税引前利益<sup>3</sup>は、2007 年度第 2 四半期の 29 億 5,000 万ドルに対し、6 億 7,900 万ドルとなった。純営業収益は前年同期の 74 億ドルに対し 36 億ドル、税引前利益率は前年同期の 40%に対し 19%となった。株主資本利益率(普通株式)は前年同期の 35%に対し、9%だった。

<sup>3</sup> 非連結子会社の利益(損失)と税金を計上する前の継続事業による利益。

- アドバイザリー業務の収入は 3 億 6,700 万ドルと、前年同期比 49%減少した。
- 引受業務の収入は前年同期比 48%減の 5 億 800 万ドルとなった。株式引受業務の収入は同 40%減の 2 億 9,800 万ドル、債券引受業務の収入は同 57%減の 2 億 1,000 万ドルだった。
- 債券のセールス&トレーディング業務の純営業収益は、2007 年度第 2 四半期の 27 億ドルを 85%下回る 4 億 1,400 万ドルとなった。金利・クレジット・為替(IRCC)業務の純営業収益減少に加えて、モーゲージの自己勘定取引における純損失計上とコモディティ部門の減収が響い

た。IRCC のうち、前年同期に大幅な利益を計上したクレジット商品は、クレジット市場の混乱が続いたことを受けて損失となった。この損失には、トレーダー勘定で以前計上した時価評価が同社の評価基準に沿っていなかったため、1 億 2,000 万ドルを新たに下方修正したものが含まれる。クレジット商品の減収は、堅調な顧客フローと高水準のボラティリティによる為替商品と金利商品の純営業収益増加で一部打ち消された。コモディティ部門の収益は、北米の電力事業における損失と不利なポジショニングによる原油・石油製品の純営業収益減少を、堅調な顧客フローとストラクチャード商品の取引で計上された純営業収益が一部相殺したものの、前年同期実績を下回った。

- ・ 株式のセールス&トレーディング業務の純営業収益は前年同期比 11%減の 21 億ドルとなった。顧客フローの増加を受け、デリバティブ、プライム・ブローカレッジ、現物業務の収益は増加したが、自己勘定取引における純営業収益の大幅な減少で打ち消された。
- ・ その他のセールス&トレーディングの約 5 億 1,900 万ドルの純損失は、ヘッジ損失が時価評価益で一部相殺されたものの、主に非投資適格企業に提供した買収資金に関連する融資と融資枠の損失が原因である。
- ・ 投資損益は前年同期の 3 億 9,600 万ドルの利益に対し、2 億 5,700 万ドルの損失となった。これは不動産ファンドへの投資、従業員の繰延報酬および共同投資制度、ならびにその他プリンシパル投資に関連する損失によるものである。
- ・ 95%の信頼区間で測った同社の平均トレーディング VaR(バリュー・アット・リスク)は、2007 年第 2 四半期の 8,100 万ドル、2008 年第 1 四半期の 9,700 万ドルに対し、9,900 万ドルとなった。同社全体のトレーディングおよび非トレーディングの平均 VaR は 2007 年第 2 四半期の 8,700 万ドル、2008 年第 1 四半期の 1 億 300 万ドルに対し、1 億 1,200 万ドルとなった。2008 年度第 2 四半期末時点の同社のトレーディング VaR は 9,900 万ドル、トレーディングおよび非トレーディングの合計 VaR は 1 億 1,800 万ドルだった。VaR の増加は市場の実現ボラティリティの上昇が主要なトレーディング・リスクの縮小を打ち消したことが主な原因である。加えて、トレーディングおよび非トレーディングの合計 VaR が増加したのは、同社の総資本拡大の原資とするための長期債発行によるものである。
- ・ 非金利費用は前年同期比 34%減の 29 億ドルとなった。前述の退職費用を含む人件費は、減収を反映して前年同期実績を下回った。ブローカレッジおよびクリアリング費用の増加ならびにその他事業に関連する取引の活発化により、人件費以外の費用は増加した。

## グローバル・ウェルス・マネジメント・グループ

グローバル・ウェルス・マネジメント・グループの第 2 四半期の税引前利益は前年同期の 2 億 6,400 万ドルに対して、9 億 8,900 万ドルとなった。税引前利益率は前年同期の 16%から 41%に上昇した。株主資本利益率(普通株)は前年同期の 40%から 172%となった。

- ・ MSWM S.V.の売却を除いた純営業収益は前年同期比 4%増の 17 億ドルとなった。資産運用業務の収入減少で一部打ち消されたが、銀行預金のスウィープ・プログラムの伸びによる純金利収入の増加、および債券トレーディング取引高の拡大によるトランザクション収入の増加が寄与した。資産運用収入の減収は、2007 年第 4 四半期に一部の手数料ベースの証券プログラムを中止し、一部の顧客契約に関連するサブ・アドバイザー手数料の分類を変更したことが原因であるが、他の手数料ベース商品の伸びでいくらか相殺された<sup>4</sup>。
- ・ 非金利費用は前年同期比 5%増の 14 億ドルとなった。人件費は、主に増収と事業への投資増加を反映して前年同期実績を上回った。人件費以外の費用は、事業の活発化による増加分が上述した一部のサブ・アドバイザー手数料の分類変更で補われたため、前年同期比で減少した。

- ・ 総顧客預り資産は前年同期比 110 億ドル増の 7,390 億ドルとなった。手数料ベース口座の顧客預り資産は同 8%減の 1,940 億ドル、総顧客預り資産に占める比率は 26%だった。
- ・ 第 1 四半期末時点で 8,350 人いるファイナンシャル・アドバイザー(グローバル・ベース)の 1 人当たり年換算収入と総顧客預り資産の平均はそれぞれ 81 万ドル<sup>5</sup>および 8,900 万ドルだった。MSWM S.V.の売却を除いたベースでは、ファイナンシャル・アドバイザー数は 2008 年度第 1 四半期から 2%増加した。

<sup>4</sup> 2008 年度第 1 四半期以降、一部のサブ・アドバイザー手数料は、一部の顧客契約の変更を反映して、資産運用、販売、管理手数料の減額要因として計上される。これまで、こうした手数料は人件費以外の費用として計上されていた。

<sup>5</sup> 2008 年度第 2 四半期の数値は MSWM S.V.の売却に伴う利益が計上されていない。

## 資産運用業務

資産運用業務部門の税引前損益は前年同期の 3 億 300 万ドルの利益に対し、2 億 2,700 万ドルの損失となった。

- ・ 純営業収益は、マーチャント・バンキング業務の損失とコア業務における収益の減少を受け、68%減の 4 億 8,800 万ドルとなった。マーチャント・バンキング業務の損失は、前年同期に堅調な利益を計上した不動産とプライベート・エクイティのプリンシパル・インベストメントが損失に陥ったことが原因である。コア業務は、主にオルタナティブ業務の運用報酬の減少とプリンシパル・インベストメントの減益により、資産運用手数料と管理手数料が減少したことが響いた。トレーディング収益の低迷は、資産運用業務部門がバランスシートに保有するストラクチャード・インベストメント・ビークルが発行した有価証券に関連して約 8,600 万ドルの損失が発生したことが主因である。
- ・ 非金利費用は前年同期比 41%減の 7 億 1,500 万ドルとなった。人件費は、従業員の繰延報酬および共同投資制度に関連する投資損失を含む減収を受けて減少した。人件費以外の費用も事業活動の不活発化を反映して前年同期実績を下回った。
- ・ 資産運用業務部門の顧客資産の純流入額は、前年同期の 93 億ドルに対し 155 億ドルと、7 四半期連続の純流入となった。コア業務の純流入額は、主に債券のマネーマーケット商品が寄与して前年同期の 56 億ドルから 138 億ドルに増加した。マーチャント・バンキング業務の純流入額は、不動産への資金流入の減少分をインフラストラクチャー・ファンドへの資金流入増加分で補い切れず、前年同期の 37 億ドルから 17 億ドルに低下した。
- ・ 2008 年 5 月 31 日時点の顧客預り資産は、コア業務とマーチャント・バンキング業務における増加を受け、前年同期比 450 億ドル(8%)増の 6,050 億ドルと過去最高を記録した。コア業務における顧客預り資産の増加は、株式関連の顧客資産の純流出で一部打ち消されたものの、債券のマネーマーケット商品とオルタナティブ商品への顧客資産の純流入が主因である。マーチャント・バンキング業務における顧客預り資産の増加は、不動産関連で顧客資産の純流入と資産価格が上昇したこと、さらにはインフラストラクチャーへの顧客資産の純流入が寄与している。
- ・ リッパー・ランキングの上位半分を占める同社の長期ファンドの資産の比率は単年度で 35%、3 年間で 39%、5 年間で 52%、10 年間で 73%だった。

## その他の事項

第2四半期の継続事業の実効税率は30.0%と、前年同期の32.6%から低下した。税率低下は減益が原因であるが、米国内の税額控除の減少による税率上昇で若干打ち消された。

2008年5月31日時点で、同社は自社株買いプログラムの一環として今年度の普通株の自社株買いを実施していない。

同社は取締役会が四半期ベースの配当を普通株1株当たり0.27ドルに決定した旨を発表した。配当金は2008年7月11日時点の普通株主に対し、2008年7月31日付けで支払われる。さらに同社は取締役会がシリーズA変動利付き非累積優先株(優先株1株につき1,000分の1の権利を持ち、0.25278ドルの配当を有する預託株式)1株当たり252.78ドルの四半期ベースの配当を、2008年6月30日時点の優先株株主に対し2008年7月15日付けで支払うと発表した。

2008年5月31日現在の総資本は2,101億ドル(キャピタル・トラストに対して発行された普通株式、優先株式および劣後債450億ドルを含む)、発行済み株式数11億株に基づく普通株式1株当たり簿価は30.11ドルである。

モルガン・スタンレーは、投資銀行、証券、資産運用、ウェルス・マネジメント事業において多岐にわたるサービスを提供する世界有数の総合金融サービス企業である。世界33カ国にある600以上のオフィスを通じて、法人、政府、機関投資家、個人に質の高い金融商品およびサービスを提供している。同社に関する詳細については[www.morganstanley.com](http://www.morganstanley.com)を参照されたい。

決算概要は添付資料を参照。財務、統計、事業関連の追加情報、事業およびセグメント動向は財務の補足説明書(Financial Supplement)に掲載されている。決算リリースと財務の補足説明書は同社ウェブ・サイト([www.morganstanley.com](http://www.morganstanley.com))のInvestor Relationsのセクションでも公開している。

###

このプレス・リリースには予想的見解が含まれている可能性がある。予想的見解は、資料作成時の経営者の推定、予想または信念を反映したものであり、実際の結果と大きく異なるリスクおよび不確実性が存在するため、読者は予想的見解を過度に信用すべきではない。実際の結果に重要な影響を与え得る潜在的なリスクおよび不確実性に関しては、フォーム10-Kに基づく2007年度同社年次報告書のPart I、Item1の直前に記載されている「予想的見解」の項、Part 1、Item1に記載されている「市場の競争」および「各種規制」の項、Part 1、Item1Aに記載されている「リスク要因」の項、Part II、Item7に記載されている「業績に影響を及ぼした各種要因について」の項を参照されたい。